

一般質問通告書 9月議会

令和7年9月11日

番号	件名	氏名
1	中間貯蔵導入について 及び観光振興に関する地域住民の声として	山村 泰志
2	中間貯蔵施設をめぐる町の今後の動きについて	清水 康博
3	使用済燃料中間貯蔵施設に係る今後の対応について	古 泉 直 紀
4	地域猫活動について	柏 田 真 一
5	町の将来と企業誘致	柏 田 真 一
6	あらためて問う、関西電力は信頼に値する企業か	山 戸 孝
7	官民一体となり、民の力を引き出す取り組みを	山 戸 孝
8	中間貯蔵施設に対する町長の「中立」的見解について	秋 山 鈴 明
9	職員不足時代における持続可能な行政運営について	秋 山 鈴 明

6人9件

定例会一般質問通告書

令和 7 年第 3 回上関町議会定例会（9 月）

◆質問者 1 山村 泰志	
質問事項	質問要旨
中間貯蔵導入について 及び観光振興に関する地域 住民の声として	1 点目は中間貯蔵導入について再度問う。私の支援者からも中間貯蔵施設導入政策の進展を望まれているが、今後の方策について、町の考えを問う。 2 点目は観光振興に関する地域住民の声として。「花咲く海のまち」をさらに充実したものにするためにも、御茶屋花木公園の整備を検討しては如何に。定住人口の減少が不可避であるならば、交流人口の増加で補おうという考え方です。資金源として中間貯蔵施設導入に関連する財源が活用できるのではないかと思います。シンボルパーク整備について町の考えを伺います。
◆質問者 2 清水 康博	
質問事項	質問要旨
中間貯蔵施設をめぐる町の今後の動きについて	①「報告書を確認し、精査していく」と発言されているが、町として具体的にどのように精査されるのか。 ②「住民説明会は事業計画が出たあとに行う」と発言されているが、説明会の開催場所、回数など、現時点での想定は。 ③町長が中国電力へ上関町の地域振興策を依頼して、その案として示された中間貯蔵施設計画であることから、町長が先頭に立って住民に対して説明を行うべきであると考えるが、町長のお考えは。

◆質問者 3 古泉 直紀	
質問事項	質問要旨
使用済燃料中間貯蔵施設に係る今後の対応について	先般 8 月 2 9 日、町は中国電力から使用済燃料中間貯蔵施設の立地可能性調査の報告を受けました。町として中国電力に対して早期に事業計画を提示するよう求めるべきではないかと思っておりますが、町長のお考えをお聞かせください。他方、立地可能性調査の結果報告の際、町長は中国電力に対し、町議会や町民に丁寧に対応するようお願いしたと承知しておりますが、今後の中間貯蔵施設の建設判断に向け、町としてどのような理解活動に力を入れていきたいと考えているのか。また、町民に対して何かお願いしたいことはあるのか。町長のお考えをお聞かせください。
◆質問者 4 柏田 真一	
質問事項	質問要旨
地域猫活動について	地域猫活動とは、飼い主のいない猫を「野良猫」として放置するのではなく、猫の嫌いな人にも、ある程度許容してもらえる「地域猫」として一定の管理をして見守っていこう、将来的には飼い主のいない猫を減らしていこう、という活動です。現状、猫に対する避妊、去勢手術代金の助成が行われています。地域においてこれ以上、邪魔者扱いされるかわいそうな猫を増やさないため、飼い主のいない猫が少しでも長く幸せに暮らせるよう避妊、去勢手術の支援に加え猫に関する条例を設置することについての町長のお考えをお聞かせください。

町の将来と企業誘致	私は企業誘致以外の政策も含め原子力関連施設の建設以外に今後、この町を将来に残していく政策はないと考えます。また、町の現状を考えればこの度、中国電力から立地可能と報告のあった中間貯蔵施設について早急に進めていく必要があると考えます。当町の将来を見据えた時、この町を維持していくために原子力発電所建設に加え、中間貯蔵施設の建設以外にこの町を将来に残していく政策があるとお考えでしょうか。町長のお考えをお聞かせください。
◆質問者 5 山戸 孝	
質問事項	質問要旨
あらためて問う、関西電力は信頼に値する企業か	1. 今年の3月定例会以降、関西電力と直接間接を問わずコンタクトはあったか。 2. 関西電力の上関町を意図したとみられる「2035年末には使用済み核燃料を県外の中間貯蔵施設に搬出する」という福井県への報告に対し、搬出先は上関町ではないことの確認をとるべきではないか。 3. 核のゴミの永久貯蔵の危険性をはらむこの中間貯蔵施設計画の事業者として、関西電力は信頼に値する企業か。 4. 「関西の核のゴミがやってくる」、このことへの上関町および周辺自治体の住民の反発は大きいものがある。町長はどう受け止めるのか。住民への説明責任は国にあるとするが、上関町長として懸念や不安はないのか。
官民一体となり、民の力を引き出す取り組みを	1. 若年層や子育て世代など、今後の町を担っていく世代の声をまちづくりや施策に反映させる風土や雰囲気在上関町にあると感じているか。また行政として今後の町を担う世代の考えや議論を行政側が吸い上げ施策や事業に反映させるような制度や場の設置はあってもよいと考えるか。 2. 総合計画策定時のワークショップのような形で、あるいはグループチャットの様なツールを使い、地域や

	世代の垣根を越えて住民間の議論を引き出し、場合によってはそれを施策に反映させることで「住民が主体のまちづくり」を住民が実感し、またそういった経験を積む機会を生むことが、ひいては町全体の民の力を引き出すこととなると考えるが、そういった機会を作ることは考えないのか。 3. 高齢化が進む上関町だが、逆に考えれば 60 歳以上でもまだまだ体を動かす機会や地域貢献を望む方がおられるのではないかと。町にはシルバー人材センターのような組織が無いのでそれが可視化されにくく、またそういった力を求める場合でも集約化ができない状況にあるのではないかと。そういった活動を希望する方と、そういった方の活動を求める場をマッチングさせる仕組みは現状町にあるのか。またそういった仕組みを必要と考えるか。
◆質問者 6 秋山 鈴明	
質問事項	質問要旨
中間貯蔵施設に対する町長の「中立」的見解について	町長は、報道インタビューにおいて、中間貯蔵施設誘致について「ニュートラル」「中立」と述べておられました。住民が賛否を判断するためには、中立・公平な立場から情報を整理・提示するとともに、ご自身の“中立”的見解を明らかにすることが町長の責務です。現段階での「中立的な整理」として、町長ご自身が考えるメリット・デメリットをそれぞれ具体的にお示しください。
職員不足時代における持続可能な行政運営について	①マンパワー不足が深刻な時代に、行政主体かつ職員をイベント運営に大量動員する現状をどのように評価されていますか。また、理想の形態や改善に向けた具体的な戦略はお持ちでしょうか。 ②総合計画にも「行政と住民の協働」は記載されていますが、地域主体の担い手を育て、持続可能な地域運営につなげるため、具体的な戦略や施策をどのように考えておられるのか、お伺いします。